

(4) 水道施設・管路の耐震化と経年管の状況、鉛製給水管残存状況

平成 30 年度末の全国の水道施設の耐震化の状況は、浄水施設の耐震化率は 30.6%、配水池の耐震化率は 56.9%、基幹管路の耐震適合率は 40.3%と依然として全体的には低い状況にある。

大阪府全体における令和元年度末の浄水施設の耐震化率は 22.4%、配水池の耐震化率は 48.0%、基幹管路の耐震適合率は 48.3%、法定耐用年数 40 年を超えた老朽化管路率は 32.8%となっている。(P.48~50 参照)

平成 30 年度末における全国の耐震管布設状況と法定耐用年数(40 年)超の管延長は、次頁のとおりで、大阪府が残存率で全国ワーストとなっている。(表一八)

また、鉛製給水管の残存状況については、残存延長は全国ワーストではないものの、残存件数は全国ワーストとなっている。(表一九)

各事業体においては、アセットマネジメント手法を活用して、綿密な耐震化・更新計画を立案し、早急に水道施設・管路の耐震化、鉛製給水管の更新に向けた取り組みを進める必要がある。

表一八 水道管路の耐震化状況と経年管の状況(全国比較) 【平成 30 年度水道統計より】

耐震管の延長・割合(配水支管含む)					法定耐用年数(40年)を超えた管延長・割合						
管延長(km)			布設率(%)		管延長(km)			残存率(%)			
①	東京都	12,549.9	①	東京都	42.9	①	愛知県	8,670.3	①	大阪府	31.7
②	愛知県	8,515.8	②	富山県	29.1	②	大阪府	7,802.4	②	神奈川県	25.6
③	埼玉県	7,053.7	③	神奈川県	25.2	③	神奈川県	6,691.1	③	京都府	24.9
④	神奈川県	6,582.7	④	青森県	25.1	④	千葉県	6,584.5	④	香川県	24.0
⑤	大阪府	5,568.3	⑤	埼玉県	24.1	⑤	北海道	6,338.2	⑤	山口県	23.2
			⑥	大阪府	22.6						

表一九 鉛製給水管残存状況(全国比較) 【平成 30 年度水道統計より】

残存延長(km)				残存件数(件)							
全体の残存状況(km)		公道部の残存状況(km)		全体の残存状況(件)		公道部の残存状況(件)					
①	兵庫県	486.8	①	石川県	295.6	①	大阪府	271,561	①	大阪府	102,221
②	石川県	376.2	②	兵庫県	202.4	②	兵庫県	221,688	②	兵庫県	57,664
③	宮城県	353.2	③	大阪府	152.5	③	香川県	132,483	③	神奈川県	40,689
④	香川県	328.0	④	静岡県	131.4	④	神奈川県	125,310	④	福岡県	35,853
⑤	大阪府	322.5	⑤	神奈川県	110.0	⑤	福岡県	111,473	⑤	広島県	34,013